

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名 グループホーム 愛

日付 平成 20年 8月 28日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 介護支援専門員経験10年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

平成18年10月2つのユニットのグループホームが丘陵地の高台に建てられた。当初は奥まった一つユニットから始まり、1年余り経て2つ目のユニットがスタートした。今回は2つのユニットを訪問させてもらったが、このホームの大きな特長はそれぞれのユニットの利用者にある。当初からのユニットの利用者は女性ばかり、他のユニットの利用者は男性6人と女性3人で、1つのユニットに男性が3分の2という圧倒的な男性の館であった。岡山県のグループホームの中でも珍しい。さぞ、うとうしい暮らしだろう。職員も大変だろうと想像するが、訪問して驚いた。調査員も女性ばかりのユニットに男性が、男性の多いユニットに女性という組み合わせもびったりだったかも知れない。

女性の調査員がユニットを訪問して挨拶すると、黒い帽子をかぶったお洒落の男性利用者がにっこりと、他の男性達もそれぞれに歓迎してくれた。「この人は坊さんじゃ」と黒い帽子の人を紹介してくれたので、「そうですか。お寺さんですか?」と聞き出すと、帽子を取って「頭だけが、じゃがな」ときれいに手入れされた頭をつるりと撫でて見せてくれた。「どうしてこんな頭にしたら。毎日自分で手入れをしている」と言う説明から始まって、中国や台湾を旅行三昧した話、船中・戦後の話しに花が咲いて、ソファに座っていた利用者全員が楽しい一時を過ごした。中腰でお喋りに夢中になっていると、「どうぞ、これを掛けてゆっくりして下さい」と椅子を持ってきてくれたのも、他の男性利用者。お昼のちらし寿司をゆっくり味わっていたら「岡山の方からわざわざ勉強に来られたんじゃな。若いのに奇妙な事じゃ。まあ、何もありませんけど、ごゆっくり食べて下さい」と挨拶して自分の盆を下膳したのも、又、違う男性。「あの帽子の方が、それとなく場をまとめてくれますし、他の男性の皆さん、気配り・心配り・そして、動きも良くて、本当に助かっています」と喜ぶ職員の言葉に頷いてしまった。このユニットでは、男女を問わず、洗濯物畳み、ゴミ処理、畑仕事、大工仕事、その他生活上の仕事全てを率先して皆がこなしてくれて助かっているとの職員も利用者とも和気藹藹で生活している。

他のユニットは女性ばかりなので、当然ながら調理の手伝いにいそむ人、掃除が得意な人、食卓を拭く人、洗濯物の畳と整理など、それぞれの人の持味を發揮して生活している。自然に役割分担が決まっており、「よう頑張られますなあ」と声をかけると、「台所仕事は女の役目じゃけえ」と腰は曲がっているが、しっかりした返事が返ってきた。

女性ばかりで自己主張する人が多いユニットの雰囲気、男性達はふんわりとした緩和役となり、18人の人たちが、お互いに気配りや思いやりをして平穩無事に暮らしている姿を見た。

特に改善の余地があると思われる点

「今の状態に満足してはいけない」「小目標を小刻みに設定し、きちんと評価する」「さんが出来る事を今以上に発見しよう」等、職員間でよく意見交換をし、ケアプランのアセスメントや介護項目の設定、モニタリング等に活かして貰いたい。

2. 評価結果(詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：ホーム運営の基礎作りの段階なので、一つひとつの項目の向上を着実にしてもらいたい。</p> <p>2、全体的に見て…：ホーム開設時に「教科書にあるようなありきたりなものではなく、自分達で作り上げよう」と職員全員参加で作った理念が管理室に掲げてある。職員は毎日朝礼時に皆で復唱して仕事にはいるという。この中で、「寄り添い、気がつける人になれるよう努めます」という事を管理者は特に力を入れている。ほとんど開設時以来の職員で移動がないこともあって、この姿勢が全員に浸透していることが伝わってくる。</p> <p>管理者は、「一人ひとりに寄り添う介護を大切にしよう」と求めている。そして、利用者に対して「職員がすべて世話をしてしまうより、できるだけ日頃の生活のできることをしてもらいながら、出来ない事をサポートしてゆこう」と職員全体で確認しあっている。その姿勢が結果として利用者との信頼関係が深まっているようだ。</p> <p>それは、利用者に対してだけでなく職員相互間においても、譲り合い、融通のしあいの空気で作られていて、居心地の良い雰囲気を感じさせるホームになっている。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：ホームの立地は申し分なく、ホームの環境づくりは、ここに住む利用者と職員がどのように作っていくかが楽しみである。</p> <p>2、全体的に見て…：室内では、リビングを食卓テーブルゾーンとソファで仕切った畳ゾーン、それに台所ゾーンとそれぞれの居間といったところを活用し、その人それぞれに居場所ができるよう配慮している。2つのユニットでは、利用者の性別、性格、人生歴等、一人ひとりの個性の違いから生活パターンも違うし、人間関係も異なり、独特なホームの生活の姿である。共通して云えることは、利用者の生活能力を自分で発揮できる人が多く、お互いに気配りや思いやりをしながら生活している事が大きな特長である。このホームの生活空間は住んでいる人の行動や生活臭で心地良い雰囲気に作りあげられるだろう。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：利用者個別の心身の状態に合わせた必要なケアをその都度見直し、機能回復や維持をしていこうと考えている。ホーム全体としてのケアとサービス提供の質の向上のため、利用者に対して行うケアの方針について話し合ったり、職員の資質の向上のための研修等を前向きに行い、ホーム全体の向上を目指している。</p> <p>2、全体的に見て…：もう少しで百歳になる女性に「百歳を目指しましょう」と声をかけると、握り拳を天井へ向けて突き上げて、元気に応じてくれた。利用者は生活上の仕事はかなりできるし、自分の役割を持って生き生きと生活している。一方で、「へ行きたい」「へ行きたい」「がしたい」「××を食べに行きたい」等自分の思っている事、希望している事をすぐに言える。そして、その事が叶えられる。これは自分らしく生かれる最も身近な事ができる最高の利用者との間柄の実現である。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	<p>自主評価について…：先ず、両ユニットが揃って運営しているのは1年余りである。それぞれの特長を生かして、ユニークなホームを感じ、職員も利用者と一緒に楽しい生活が送れているというのが現状だろうと思う。今後2～3年経っていくと利用者の状況も変化していくだろうし、その時にどのようなケアとサービスをしていけば良いかを今から想定してもらい、ホームの業務一つひとつを確定していくべきと思う。認知症の真の理解と人間としてのケアのあり方が重要と思う。</p> <p>2、全体的に見て…：法人全体として高齢者にどのように対応していくか、その中でグループホームの使命はどのように具体的にすべきかを考える時、最も大切な事は職員の一人ひとりの資質であると思う。高齢者や認知症に対する愛情、一人の人間としての尊厳の気持、そして気軽に付き合えるコミュニケーション能力等が問われる。外部で研修や介護職の交流等を得て、グループホームこそ、人間を対象として接することのできる唯一の尊い仕事であるという自覚と自信を持って欲しいと思い、期待している。</p>		